



更科源藏(さらしなげんぞう)
 ●1904(明治37)年、弟子屈町熊牛原野(南弟子屈)に生まれ、1985(昭和60)年に81歳で逝去。東京麻布獣医学校を中退した後、尾崎喜八、高村光太郎に師事し、詩作を中心に郷土史、アイヌ文化研究など主に文学活動が続けた。
 ▶弟子屈町で所蔵しているさまざまな資料を紹介する。

著書の検印などに使っていた自作のエゾシカ印



座談会後にテレビ対談をしたメンバー
 右端が更科で白い布靴を履いている



右端が皇太子殿下(現在の天皇陛下)左に一つ席を空けて更科
 (『北海道の今昔』から転載)

『北海道の今昔』 -皇太子殿下とジンギスカン-

1958(昭和33)年6月23日、皇太子殿下(現在の天皇陛下)は、18日間の予定で道内を訪問されています。この旅程中の7月9日、札幌で座談会「皇太子殿下を囲んで」北海道の今昔を語る」が、札幌市知事公館で予定されていました。

出席者は、阿部謙夫(元北海道新聞社社長)・今井道雄(丸井百貨店社長)・更科源藏(郷土史家)・高倉新一郎(北大教授)・司会は田中敏文(北海道知事)でした。(肩書きは当時)

更科の過去を知る友人たちは「世が世であれば、お前は保護検束される身分でないか」とひやかします。更科は青年のころ、思想犯の嫌疑で警察に拘留されていたことがあります。1922(昭和11)年に陸軍特別大演習が北海道であり、天皇陛下がこれに先立ち釧路地方を訪問されたのです。このとき、道内の不逞分子は保護検束されることので、リストに更科も含まれている情報を新聞社から聞いて、東京へ退避していたことがあったのです。

更科は郷土史研究や執筆で忙しくしていましたが、決まったお金が入る仕事ではありませんでした。更科は、当日着ていく夏服

を持っていなかったため、原稿料の前借りをして夏服をそろえます。が、革靴まではお金が回らないので、白い布靴にします。

当日、30分前に知事公館に入っていたのは更科だけで、ほかのメンバーはまだ来ていませんでした。そこへ皇太子殿下が予定より20分早く知事公館に着くことになり、更科が一人で殿下をお迎えすることになってしまったのです。座談会は、10分早く始まり、予定より20分過ぎて終了しました。

座談会終了後、殿下とメンバーは知事公館の芝生でジンギスカンの昼食です。更科は、おにぎりに羊の脂をつけて食べるとおいしいのだと実演してみせ、何人かはまねたようですが、殿下はなされなかったようです。

更科が後日、耳にした話では、殿下はおにぎりを4つ召し上がり、次の予定の宿泊地、支笏湖の宿では夕食をお取りになられなかったそう、夕食を用意した宿から、昼食を差し上げた知事がうらまれたとのこと。また、侍従の東宮大夫にジンギスカンの鍋を買って帰ろうとおっしゃられたとも聞きます。



差出有効期間
 平成23年3月
 31日まで
 (切手不要)

料金受取人払郵便
 釧路支店
 承認
 69

町民課町民相談係行

弟子屈町役場

0883292